

文化的景観研究集会（第9回）ポスターセッション
ポスター募集のお知らせ
（学術研究部門／地域計画部門／地域活動部門）

奈良文化財研究所では、本年12月9日～10日にかけて、文化的景観研究集会（第9回）を別紙のとおり開催します。その研究集会の一部として「ポスターセッション」を開催いたします。

「ポスターセッション」は、研究集会テーマにかぎらず、広義の「文化的景観」について、日頃の調査研究や取組を広く対象としますので、文化的景観に関する成果発信や情報共有の場としていきたいと考えています。

応募要項をご参照のうえ、多くの皆様からの積極的なご応募をお待ちしております。

奈良文化財研究所文化遺産部景観研究室
〒630-8577 奈良県奈良市佐紀町247-1
TEL: 0742-30-6816 FAX: 0742-30-6841
E-mail: keikan@nabunken.go.jp

応募要項

1. 日程

| | | |
|-----------|-------------|---------------------------------|
| 11月10日（金） | | 応募登録締切 |
| 11月30日（木） | | 『発表資料集』掲載用発表要旨 提出締切 |
| 同日 | | 出力用ポスターデータ締切（事務局における出力を希望する方のみ） |
| 12月9日（土） | 10:00～10:30 | ポスター掲示作業（京都府立大学 大学会館2階 多目的ホール） |
| | 16:00～16:45 | ポスターセッション コアタイム（ポスター前で発表） |
| | 17:45～ | ベストポスター賞授与式 |

2. 会場

京都府立大学 大学会館2階 多目的ホール（京都市左京区下鴨半木町1-5）

3. 対象

ポスターセッションでは、研究集会テーマにかぎらず、広義の「文化的景観」（※）に関連する内容を対象とします。また、発表内容に応じて、以下の3つの部門を設けます。

- 1) 学術研究部門：文化的景観の概念・調査・計画・実践等に関する学術研究。
- 2) 地域計画部門：行政等における文化的景観保護のためのプロセスや計画策定に関する取組紹介。
- 3) 地域活動部門：NPO・住民組織・行政・大学等によって実践された文化的景観をいかした取組紹介。

※いずれも文化的景観に関する制度等の適用の有無は問いません。

4. 応募資格・応募数

すべての部門において不問とします。行政や地域の活動主体、学術研究機関など、文化的景観に関わっている方々や、これから文化的景観に関わろうとしている方々からのご応募を期待します。

なお、総数は30題で、発表代表者（筆頭発表者）としての応募は1人1題とします。

5. 費用

応募費用は無料とします。

6. ポスター・発表要旨の仕様

[ポスター]

1 発表あたり、A0 サイズ (841mm × 1189mm) 1 枚、縦長のスペースを用意します。

記載言語は日本語、あるいは日英併記とします。

文字のサイズは、2m 程度離れた位置からでも判読できる大きさとしてください。

[発表要旨 (研究集会発表資料集掲載)]

タイトル、発表者名、所属、発表要旨 (400 ~ 600 字程度) を、原則日本語で記載してください (書式自由)。

MS-Word 等にて作成ののち、メール・郵送等で、問い合わせ先 (事務局) まで提出してください (「1. 日程」参照)。

事務局にて編集の上、研究集会発表資料集に掲載します。

7. ポスターの掲示及び出力申込について

[ポスター掲示]

ポスターは、当日 10:00 ~ 10:30 のあいだに会場に掲示してください。なお、ポスターの出力は、希望により事務局でも承ります。その場合、当日の掲示作業は事務局にておこないますので、研究集会受付時刻までにお越しください。

[ポスター出力申込]

ポスターの出力を事務局に依頼する場合、応募登録票にて申込のうえ、「1. 日程」記載の期日までに下記仕様のデータをご送付ください (メール: 宅ファイル便・firestorage 等経由可 / 郵送: CD-R/DVD-R)。

作成仕様

Microsoft PowerPoint、Adobe Illustrator、Adobe Photoshop 等のソフトウェアにて、出力サイズ (A0) にてご作成ください。フォント環境の違いによる文字化け等を避けるため、送付時は PDF ファイル等へ変換するか、文字のアウトライン化 (Adobe 製品は cs6 まで対応可) 等を施したうえでご送付ください。

8. 応募登録

応募登録票に必要な事項を記載し、電子メール、FAX、郵送にて、以下の問い合わせ先にご送付ください。

折り返し、発表受付のご連絡をいたします。

※応募登録票は奈良文化財研究所景観研究室ウェブサイトよりダウンロードしてください。

※申込時に記載いただく題目・概要は仮のものとし、変更は可能です。発表要旨提出時に記載いただいた題目・要旨を正式なものとしします。

9. 各賞について

ポスター内容について、事前に選考を行い、ベストポスター賞の授与を以下のとおり行います。

◇学術研究部門: 若手研究者 (博士号取得未満の大学院生及び学部生) による発表題目より若干題。

◇地域計画部門・地域活動部門: すべての応募題目より若干題。

[選考基準]

- ・ポスター内容の充実度
- ・ポスターの見やすさ・わかりやすさ

[授与式]

- ・研究集会終了後 17:45 ~ (閉会時)

10. 問い合わせ先/提出先 (事務局)

奈良文化財研究所文化遺産部景観研究室

〒630-8577 奈良県奈良市佐紀町 247-1

TEL: 0742-30-6816 FAX: 0742-30-6841

E-mail: keikan@nabunken.go.jp

website: <http://www.nabunken.go.jp/org/bunka/landscape.html>

(参考) 2015 年度ポスターセッション一覧

| | 発表題目 | 発表者名 (○: コアタイム発表者) |
|-------------------|---|--|
| A - 学術研究部門 | | |
| A-1 | 塀・垣類に係る伝統的工法の地域的特徴に関する研究 | ○西村亮彦 (国土技術政策総合研究所)、木村優介、曾根直幸 (元・国土技術政策総合研究所)、栗原正夫 (国土技術政策総合研究所) |
| A-2 | 筑波山周辺地域の制度 | ○西邑雅未、黒田乃生 (筑波大学) |
| A-3 | 神社の立地にみる住民の想い - 国選定重要文化的景観 利根川・渡良瀬川合流域の水場景観 - | ○宮田裕紀枝 (元・板倉町教育委員会) |
| A-4 | 棚田景観の価値付けを契機とした地域活動の活発化 - 高根県奥出雲を事例として | ○中西広大・新雄一郎・徐尚佑 (大阪市立大学) |
| A-5 | かくれキリシタン信仰の世界遺産登録運動における諸問題 - 「橋の色」をめぐる行政と住民の対立を事例として - | ○小泉優莉菜 (神奈川大学) |
| A-6 | 文化的景観としての対馬の石屋根倉庫の研究 | ○小林秀輝、藤田直子 (九州大学) |
| A-7 | 中国の黔东南における植物資源の循環利用に関する研究 | ○李雪、黒田乃生 (筑波大学) |
| A-8 | 博物館とその周辺環境に関する研究 - Tokyo National museum, Tokyo と National Gallery, London の文化的空間構成要素の比較分析 - | ○岡野瑛莉、関根理恵 (江戸川大学) |
| A-9 | 河岸における文化的景観に関する研究 - 首都『Paris, rives de la Seine (Paris, FRANCE)』、『日本橋川河岸 (東京都, 日本)』と地方都市『Le quai de la poissonnerie (Colmar, FRANCE)』、『巴波川河岸 (栃木市, 日本)』を事例として - | ○関根理恵 (江戸川大学) |
| A-10 | 「都市の環境倫理」の観点から見たパリの文化的景観 | ○吉永明弘 (江戸川大学) |
| A-11 | 歴史的建造物内空間の文化的景観に関する考察 - ヴェルサイユ宮殿を事例として - | ○安座間愛、関根理恵 (江戸川大学) |
| B - 地域計画部門 | | |
| B-1 | なりわいを支えることにより文化的景観を守る取組み 「カルデラ火山との共生」阿蘇の文化的景観① | ○帆足俊文、園田羊一、金山一仁、緒方徹、佐伯隆夫 (阿蘇世界文化遺産推進室)、徳永哲、赤星眞弓 ((株) エステイ環境設計研究所) |
| B-2 | 文化的景観における本質的価値の構成と表現 「カルデラ火山との共生」阿蘇の文化的景観③ | ○徳永哲 ((株) エステイ環境設計研究所)、帆足俊文 (阿蘇世界文化遺産推進室)、赤星眞弓 ((株) エステイ環境設計研究所) |
| C - 地域活動部門 | | |
| C-1 | 平取町文化的景観の価値認識と地域・企業・行政の連携による保全の取組 | ○貝澤太一 ((株) ノーザンクロス) |
| C-2 | 重要文化的景観「近江八幡の水郷」 ワイズユースによる景観保全 | ○野口尚志、濱崎一志、深尾甚一郎、奈良俊哉 (NPO 法人景観と文化研究会) |
| C-3 | 「大溝の水辺景観」を舞台とした「暮らし」と「観光」の共存するまちづくりに向けて | ○神原未来、今西仁、仁賀定夫 (大溝の水辺景観まちづくり協議会) |
| C-4 | 千年村を紐解く、楽しむ - 周防鑄銭司の風土を舞台に - | ○本間智希 (RAD)、菊地暁 (京都大学)、恵谷浩子 (奈良文化財研究所)、井高久美子、高原文江 (山口情報芸術センター) |
| C-5 | 白地図の余白で地域を語る ~くろそん手帖の活動と展開について~ | ○井上紀代美 (しろくまデザイン)、多田さやか (くろそん手帖活用委員会)、川村慎也 (四万十市教育委員会)、 |
| C-6 | 空石積による水路改修の一事例 | ○松熊修吾、西山穩、濱口聰、國廣聡志 ((株) 西日本科学技術研究所)、宇都宮幸成、西村範明 (四万十町教育委員会生涯学習課) |
| C-7 | 学生キャンプから見えてきた流域連携事業の可能性 | ○武市真実 (公益財団法人四万十川財団)、川村慎也 (四万十市教育委員会) |
| C-8 | 住民感覚に根ざした文化的景観の取組みに向けて 「カルデラ火山との共生」阿蘇の文化的景観② | ○赤星眞弓、徳永哲 ((株) エステイ環境設計研究所)、帆足俊文 (阿蘇世界文化遺産推進室)、武藤由美子 ((株) エステイ環境設計研究所) |

(参考) 2016 年度ポスターセッション一覧

| | 発表題目 | 発表者名 (○: コアタイム発表者) |
|-------------------|---|--|
| A - 学術研究部門 | | |
| A-1 | 文化的景観の価値の把握と共有におけるフェノロジー カレンダーの有用性 ～北海道美瑛町を対象として～ | ○麻生 美希 (九州大学)、真板 昭夫、村上 佳代 (北海道大学) |
| A-2 | 表参道沿道地区 (景観特定地区) の現状について | ○安座間 愛、関根 理恵 (江戸川大学) |
| A-3 | 坂東市の文化的景観について | ○鈴木 淳史、関根 理恵 (江戸川大学) |
| A-4 | 博物館とその周辺環境に関する研究Ⅱ | ○岡野 瑛莉、関根 理恵 (江戸川大学) |
| A-5 | 伝統文化継承装置としての花街が有する文化的景観に 関する研究 -新潟市古町・八王子市中町を参考事例として- | ○久保 有朋 (新潟大学大学院) |
| A-6 | 赤と緑と青のシマ -沖縄県うるま市津堅島- | ○島本 多敬 (京都府立大学大学院)、加藤 叡、喜馬 佳也乃 (京都府立大学) |
| A-7 | 照間知ってるま!? ～ビーグの見える風景～ | ○豊田 祥子、宮下 遥 (京都府立大学大学院)、近藤 史昭 (京都府立大学) |
| A-8 | 筑波研究学園都市の半世紀 - 1960 年代に形成された都市景観の現状分析 - | ○浅野 椋子、関根 理恵 (江戸川大学) |
| A-9 | 埼玉県ふじみ野市砂川堀周辺の景観 | ○小川 明乃、関根 理恵 (江戸川大学) |
| A-10 | 熊谷の歴史的建造物と緑の共存する文化的景観の提案 | ○五百井 美智子、関根 理恵 (江戸川大学) |
| A-11 | 原発被災集落における文化的景観 - 福島県南相馬市小高区上浦行政区を事例として - | ○太田 慈乃 (東京大学大学院)、萩原 拓也、李 美沙 (東京大学)、益邑 明伸、川田 さくら、黒本 剛史、小林嵩 (東京大学大学院) |
| A-12 | 越谷景観計画と景観条例の現状について - 元荒川沿川特定地区の下流区間を中心として - | ○笹内 真、関根 理恵 (江戸川大学) |
| A-13 | 河岸における文化的景観に関する研究Ⅱ - 『Paris, rives de la Seine』を事例として - | ○関根 理恵 (江戸川大学) |
| A-14 | 豊岡市竹野浜地区 道から見るなりたちと生活空間 | ○縄田 諒、工藤 和美 (明石工業高等専門学校)、小浦 久子 (神戸芸術工科大学大学院) |
| B - 地域活動部門 | | |
| B-1 | 文化的景観の中から生態系サービスをひき出す - 馬瀬里山ミュージアムを事例として - | ○小川 智哉 (下呂市役所馬瀬振興事務所 地域おこし協力隊)、天池 信正、小池 永司 (馬瀬地方自然公園づくり委員会)、柳沢 直、嵯峨 創平 (岐阜県立森林文化アカデミー) |
| B-2 | 地域連携による文化的景観活用について | ○板垣 泰之、岩隈 大樹 (岩手県金ケ崎町地域おこし協力隊) |
| B-3 | 川を見守るための拠りどころをつくる - 黒尊川の地形調査 - | ○松熊 修吾、西山 穂、國廣 聡志 ((株)西日本科学技術研究所)、川村 慎也 (四万十市教育委員会) |
| B-4 | 出水によって連鎖する集落 - 香川県善通寺市下吉田町における千年村調査報告 - | ○福嶋 啓人 (京都工芸繊維大学大学院)、菊地 暁 (京都大学)、庄子 幸佑 (香川県)、前川 歩、恵谷 浩子、本間 智希 (奈良文化財研究所) |